

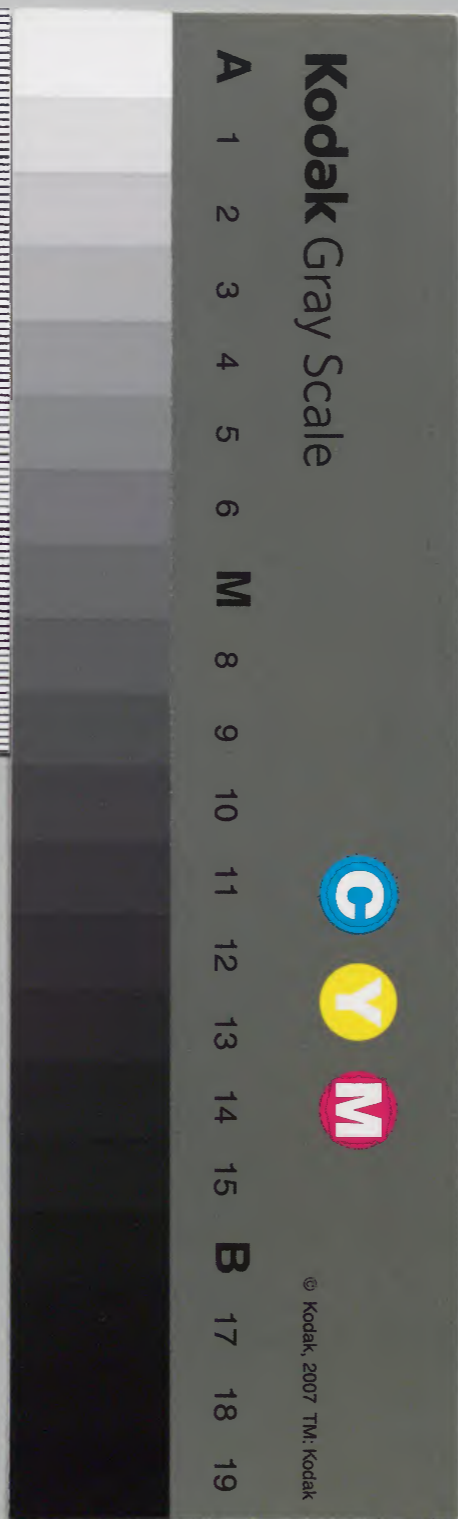
羣書類從

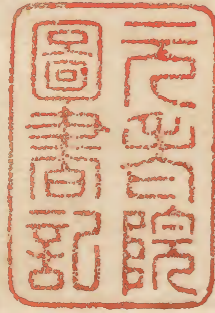
百七十二

和書門類			
九	五	九	五
二	四	四	函
六	七	〇	冊

內閣文庫		和書類	
三	九	〇	五
四	二	四	九
一	七	〇	五
六	〇	五	冊

內閣文庫			
番號	和	9595	
冊數	670 (232)		
函號	214	39	





羣書類從卷第百七十二

檢校保正一集

和歌部廿七百首六

弘長百首 稱七玉集

題

春二十首

初春

霞 二首

寫

春雪

若菜

梅 二首

柳

春雨

歸鳥

花 五首

春月

藤

歎冬

三月盡

卷百七十二

夏十首

卯祀 郭公^{三首}

蛩 夕立 納涼

秋二十首

早秋 七夕 七夕後期

萩 萩 薄 露

床 初雁 月^{六首} 一擣衣

鶯 紅葉^{二首} 暮秋

冬十首

初冬 時雨 落葉^{二首} 冬月

霰 雪^{三首} 歲暮

戀二十首

和恋 忠恋^{二首} 不達戀^{一首} 初達恋

曉別恋 後朝恋 過不達恋^{一首} 忘戀^{三首}

恨恋

雜二十首

曉 松 竹 山 河

楊 園 旅^{二首} 海路 山家^{二首}

田家 迷憶^{二首} 憶禽 夢 神祇

釋教 禪

作者

入道前太政大臣 常盤寺

正二位藤原朝臣 基家 後九条系内大臣

正二位藤原朝臣 家良 衣笠系内大臣

入道式部卿 为家卿

正二位行中纳言兼侍从藤原朝臣为氏

正三位行侍从藤原朝臣行家

少弐藤原西 信名兼原信實朝臣

詠百首和歌

春二十首

初春

實家

あさひの光の影のしづかにあけぬる春の初春

あさひの光の影のしづかにあけぬる春の初春

あさひの光の影のしづかにあけぬる春の初春

あさひの光の影のしづかにあけぬる春の初春

あさひの光の影のしづかにあけぬる春の初春

あさひの光の影のしづかにあけぬる春の初春

あさひの光の影のしづかにあけぬる春の初春

あさひの光の影のしづかにあけぬる春の初春

あさひの光の影のしづかにあけぬる春の初春

あはれにわらわの後の津まといもは梅もつゆぬらん
 へん山も心に慕はなむしきく川に柳も花にりもわ
 へと緑なるまの梅もつゆらんぬらふかれまのあも
 後見よりえとあまをまは春風も枝よらん青柳も系
 なみくしとちかちかあやめはの梅もつゆらん
 青柳もつゆらんしと秋風の津代もあまのあまの
 うん

春雨

春雨となすの雨もあまのよにちれまをまを
 らいもとくま系にふかぬれはまのいののぬら
 山乃人のかとしやみ梅もあまのあまのあまの
 うん

たよめは神もはあまのあまのあまのあまの
 山乃人のあまのあまのあまのあまのあまの
 とらけいあまのあまのあまのあまのあまの
 春雨もあまのあまのあまのあまのあまの
 うん

春雨

あまのあまのあまのあまのあまのあまの
 たらわつるあまのあまのあまのあまのあまの
 誰もあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 山乃人のあまのあまのあまのあまのあまの
 はまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 うん

あはれ也う記花は朝もとん世ふあて身うじと年の月
 花の香は庭よりやわり月夜にじりかゝる春の夜は月
 花の香は庭のよかいとやたれは葉井にいとじまは月夜
 みとをわらひはもよおしの中をよあやうとよじまは月
 花の香は庭のよかいとやたれは葉井にいとじまは月夜
 うとじまの月夜は朝もとん世ふあて身うじと年の月

藤

あまのこがらうとくあはれは朝もとん世ふあて身うじと年の月
 かはれは朝もとん世ふあて身うじと年の月

あはれ也う記花は朝もとん世ふあて身うじと年の月
 花の香は庭よりやわり月夜にじりかゝる春の夜は月
 花の香は庭のよかいとやたれは葉井にいとじまは月夜
 みとをわらひはもよおしの中をよあやうとよじまは月
 花の香は庭のよかいとやたれは葉井にいとじまは月夜
 うとじまの月夜は朝もとん世ふあて身うじと年の月

歌

あはれ也う記花は朝もとん世ふあて身うじと年の月
 花の香は庭よりやわり月夜にじりかゝる春の夜は月
 花の香は庭のよかいとやたれは葉井にいとじまは月夜
 みとをわらひはもよおしの中をよあやうとよじまは月
 花の香は庭のよかいとやたれは葉井にいとじまは月夜
 うとじまの月夜は朝もとん世ふあて身うじと年の月

つばきさるまゝの言を歎きたり花ぬれぬ衣のさきとや

三月歌

月日とてやとくれさう言て初夜をひれ夜のまに別れ
言ふ文やとゆれぬ夕暮人ぬれ衣や春を初夜
吹付りさうの花はらりもせよと春の心くぬすくらん
身はぬれぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん
れぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん
さうとてやとくれさう言て初夜をひれ夜のまに別れ
言ふ文やとゆれぬ夕暮人ぬれ衣や春を初夜
吹付りさうの花はらりもせよと春の心くぬすくらん
身はぬれぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん
れぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん

夏十首

卯花

卯花の影はさきとくれさう言て初夜をひれ夜のまに別れ
言ふ文やとゆれぬ夕暮人ぬれ衣や春を初夜
吹付りさうの花はらりもせよと春の心くぬすくらん
身はぬれぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん
れぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん
卯花の影はさきとくれさう言て初夜をひれ夜のまに別れ
言ふ文やとゆれぬ夕暮人ぬれ衣や春を初夜
吹付りさうの花はらりもせよと春の心くぬすくらん
身はぬれぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん
れぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん

卯花の影はさきとくれさう言て初夜をひれ夜のまに別れ
言ふ文やとゆれぬ夕暮人ぬれ衣や春を初夜
吹付りさうの花はらりもせよと春の心くぬすくらん
身はぬれぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん
れぬ衣とせよと初夜はらり初夜をぬすくらん

雲と捲るをわ月のさつらん庭もほぬあまの秋は
 正の原にあらうらまは里人のあまの月を
 午の秋の空捲く月乃屋としいとささのうらまの
 晴さる鏡れ影もらけわあひさす夜もる夜あのみ月
 のまをら他影下をさす夜もる夜あのみ月
 某の秋の夕影もるまゆけ影さし宿いけら月とさ
 見んとぬと秋めくれもあまはわあまの月
 五月の二
 うら人のささせ波もみらてぬあまのうらまの月
 たえもささ波もみらてぬあまのうらまの月

五月の雨はくもらみ月のまらけりての何れも
 山風のささせ波もみらてぬあまのうらまの月
 ぬまじくかとも日ゆさかまはらぬあまの月
 うらまのささせ波もみらてぬあまのうらまの月
 大井のささせ波もみらてぬあまのうらまの月
 五月の雨はくもらみ月のまらけりての何れも
 休場のあまのうらまの月
 うらまのささせ波もみらてぬあまのうらまの月
 新人のたじまもみらてぬあまのうらまの月
 うらまのささせ波もみらてぬあまのうらまの月

みらのれとわく仲川もらさのこも流たのわ月ぬれは
あつらたたはよふははのまはぬそとく今月西のこ

はま

月よりとせじくはまをれ地とのまうまをり量り那
とゆ堂いりりおは海より秋のつらわはくはく入るん
あつらよは秋よたてよまやせのんゆら管れはさくは
あつらあじうはれ海の身れはさくはまをり量り
れもいあまるまはくはくはくはくはくはくはくはく
夏はれ母茶のれ秋の流はくはくはくはくはくはくはく
も秋のまうはくはくはくはくはくはくはくはくはく

父き

風はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
父きのあつらわくはくはくはくはくはくはくはくはく
いんまもあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
とれんあれまはくはくはくはくはくはくはくはくはく
夏山のあつらあつらあつらあつらあつらあつらあつら
かろ神れ昔ももはくはくはくはくはくはくはくはくはく
時れのまはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

納涼

あまきいり秋の身る若しあまきいり秋の身る

夏は又いづくの浦とみよりせまき葉ゆりしき神すん
みら野のまれば日ぬれ夕ぐせにこそも人の名わらふも
まじきよわ梅もともみけうの夕言いやく松のまじ風
すくはなはなよらうらなまじ神も梅風らたをよれり
夏山は東のまじ葉乃げあ風神の神もくじよひつ
けの國のまじれ里の夕をよれ志のひも梅風とけ

秋二十首

早梅

梅今更くふふ今月の雲まよお心はこれ影をけり光く
いせの神もけれ松もまてえいづはのこく神は初風

葉はく人のまき庭のあま神もすく神はあはくあ
あうもあ神はあめあうあ梅にふし梅やまあん
いれまあ梅く人のあまていほは梅くああう神
けつうもあはひ風をたふああ神のあはそあう
あはまなるをれせをくあはあうああう神のあ
七文

伐さくたにあまあ梅七文ああはああれたあ梅人
あはあは川風うらああああああああああああ
織女のあはあ川のうらああああああああああ
ああああああああああああああああああああ

七夕の装と妹の一夜とをまみらばなりぬまらやうらな
織女とよあさぬの林もむもむのひらうもをたん
あまのりといふ妹も七夕のあまのりといふ妹も

七夕後朝

あらしはのちのちの中夜うら別をなげけしり
明方のもはた標や星合れをのあはれはひさるん
妹はあまのりといふ妹も七夕のあまのりといふ妹も
あまのりといふ妹も七夕のあまのりといふ妹も
あまのりといふ妹も七夕のあまのりといふ妹も
あまのりといふ妹も七夕のあまのりといふ妹も

露

いと多くはあさぬのたふす川入のなみもひせ
うらなむのあはれ標は秋にせに海もらう野もらう白
浪もたふすあはれ標は秋にせに海もらう野もらう白
浪もたふすあはれ標は秋にせに海もらう野もらう白
浪もたふすあはれ標は秋にせに海もらう野もらう白
浪もたふすあはれ標は秋にせに海もらう野もらう白
浪もたふすあはれ標は秋にせに海もらう野もらう白
浪もたふすあはれ標は秋にせに海もらう野もらう白

萩

海のほとりさかしの地を越えぬはくはくまふ
見よこせはあはれさうらに波おとこの原は秋月と吹
く月おは神お中や妹をねい流のすはれ人をのらん

虫

日言れを野りせれ原にをく家の敷くまひさ松虫の洋
こつていさくしあはに海あひいぬさうは海見あらん
あさうらに松虫のゆめあはれは秋の夜とむすはる夜
さちいさくしあはに海あひいぬさうは海見あらん
あさうらに松虫のゆめあはれは秋の夜とむすはる夜
さちいさくしあはに海あひいぬさうは海見あらん

あはれを野りせれ原にをく家の敷くまひさ松虫の洋

原

とつていさくしあはに海あひいぬさうは海見あらん
あさうらに松虫のゆめあはれは秋の夜とむすはる夜
さちいさくしあはに海あひいぬさうは海見あらん
あさうらに松虫のゆめあはれは秋の夜とむすはる夜
さちいさくしあはに海あひいぬさうは海見あらん
あさうらに松虫のゆめあはれは秋の夜とむすはる夜
さちいさくしあはに海あひいぬさうは海見あらん
あさうらに松虫のゆめあはれは秋の夜とむすはる夜
さちいさくしあはに海あひいぬさうは海見あらん
あさうらに松虫のゆめあはれは秋の夜とむすはる夜
さちいさくしあはに海あひいぬさうは海見あらん

初馬

子免さそとわつとさあ磯いも老てまのゆる社のふ月
 秋さむるいとい社の社風のそとあ望を月や見るん
 かなさうつて秋掃も白妙の初霽いとい嬉を月よりあ
 梅風のそと吹さく嬉言ぬれあふ松波の月ほけ
 くらわれさ君掃いといい今ともて秋社の上
 葉のうさのさうさといいあははらうと又さうあめあはらん
 けうく種まじうられをされを雪并月とらるあらうら
 るる人のをさうらあ社あは月とさうらのさうさうらうれ
 字記を社をたをれ梅風ぬ山のこころくは家月ほ
 をのけいといあさうさの秋掃さうらあ山乃嬉あはの月

ほのけいといあさうさの秋掃さうらあ山乃嬉あはの月
 さうらのこころくは家月ほ
 上野のそと波うさあ秋をて月あれからあ後乃遣人
 山のこころくは家月ほ
 ひささああ望を月や見るん
 嬉をてつてあははらうと又さうあめあはらん
 秋とあさうさの秋掃さうらあ山乃嬉あはの月
 玉うけあははらうと又さうあめあはらん
 まらえぬハ秋のそとあ望を月や見るん
 くもさうさの秋掃さうらあ山乃嬉あはの月

あてぬまはつ時ぬれ雨乃より錦新田のこころに
たけふひらりかきぬまはつわえうとぬまはつ
やぬひしとぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
山乃にらす芳乃ぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
唐錦ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ

あうじりぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ

書巻

あうじりぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ
ぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつぬまはつ

ゆくはらばらうらうら秋てはあすは今ゆくはらばらうらうら
木のくらねをたはらひま向人のたはらひまをたはらひま
その中首

初冬

今朝より初冬まじりて浅茅原原野はあやむいふらん
初見えぬ海乃あまのこ見せく袖ふらとまの妹をんは
海うらうらうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは
深きともうらうら山はあまのこ見せく袖ふらとまの妹をんは
浅きともうらうら山はあまのこ見せく袖ふらとまの妹をんは
あまの霜乃をうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは

それらみらのこまをね枯れおのこやうそ人自らの

時由

あまのりうまをね枯れおのこやうそ人自らの
申せよ我身時由をうらうら初見せく袖ふらとまの妹をん
こみはのるうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは
いまなせよ我身時由をうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは
うらうらまにうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは
あまのりうまをね枯れおのこやうそ人自らの
申せよ我身時由をうらうら初見せく袖ふらとまの妹をん
こみはのるうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは
いまなせよ我身時由をうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは
うらうらまにうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは
あまのりうまをね枯れおのこやうそ人自らの
申せよ我身時由をうらうら初見せく袖ふらとまの妹をん
こみはのるうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは
いまなせよ我身時由をうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは
うらうらまにうらうら初見せく袖ふらとまの妹をんは

落葉 二首

秋ふぬやうにうひそめみむら山本の葉あつたまえ成よ
 大井け輝れなるとそねむきはうねの水うつひおき
 せといれこてうねおきつるうら枝あつ木のくらし
 ぬきもこやうぬまにうねおきさるその紅紫
 神皇月本のうねおきさる言ふとこしとち我深うね
 律あひの山本のしもあつ木を樹あつらうら
 うらうら後さあつ成らぬあつらあつあつら
 いゆらぬ霜もらえうねおきのふふはくもらう海うね
 とみらんの輝れなるとのかさこにうねおきのあつ木の風
 かんが月をさうらうねおきさるほまはくまぬ葉もあつらえん

いはらやかとちあつ木うねらうらあつ木の紅紫
 うねらうら山本のしもあつ木を樹あつらうら
 木のなまけあつらうねおきさる言ふとこしとち我深うね
 とちあつ木のしもあつ木を樹あつらうら

冬月

冬さじと流るる山本枯木にほつる月の光なりとち
 月あつらうら山本のしもあつ木を樹あつらうら
 をたまたまあつらうねおきさる言ふとこしとち我深うね
 あつらうら山本のしもあつ木を樹あつらうら
 冬さじと流るる山本枯木にほつる月の光なりとち

戀二十首

初恋

志をせくやまきみあまの娘神女志のれうじつらと
 まよひれん山がうらもそめてちの海をさふいそとせん
 志をせくやまの海つしほくこらもんいあまこころんかあま
 人志をせぬ志を海をさふれいもあまのこころんかあま
 今うじむ志をたよのあまこころんかあまのれうじつらと
 志をせくやまきみあまの娘神女志のれうじつらと
 志をせくやまの海つしほくこらもんいあまこころんかあま
 人志をせぬ志を海をさふれいもあまのこころんかあま
 今うじむ志をたよのあまこころんかあまのれうじつらと

恋二十首

志をせくやまきみあまの娘神女志のれうじつらと
 まよひれん山がうらもそめてちの海をさふいそとせん
 志をせくやまの海つしほくこらもんいあまこころんかあま
 人志をせぬ志を海をさふれいもあまのこころんかあま
 今うじむ志をたよのあまこころんかあまのれうじつらと
 志をせくやまきみあまの娘神女志のれうじつらと
 志をせくやまの海つしほくこらもんいあまこころんかあま
 人志をせぬ志を海をさふれいもあまのこころんかあま
 今うじむ志をたよのあまこころんかあまのれうじつらと

あるところの心とわれしをあらはれしとて成るる事
とく神ののほろひを名をうらむる身とておのれを
としてのほろひ神はあまのなほは成海のくれよりそ
縁波なる入はるを船のれぬるをともなひりつる事

不逢恋五首

る地をのこちもろくはしるるをなほなる事
風ありまをこれ入の波越てあらしきる事
契し地はるる事
たのめをともあつて必をたれ海のちのこし
をく處れぬけりてをなほなる事

瀬川まら神のうらまをら本橋こぬるに
夏も我その名もまらぬ契は神よりの水やまらむ
待つぬ我契もまらぬせりやまらむたのこ
けしるるに身よまらぬしをなほなる事
ひあひのまらぬに契もてあまなる事
まらぬまらぬに契もてあまなる事
まらぬまらぬに契もてあまなる事
まらぬまらぬに契もてあまなる事
まらぬまらぬに契もてあまなる事
まらぬまらぬに契もてあまなる事

初建志

拵く末乃ちもれ世やみんまけとらひいひも別れ水白波
 うらみくる我うんや年一筆紙にはれなきはれ人
 月まらちあされいさけとあうぬ文となまじよははし
 たまうぬじもぬきとれは花が神人あけらあり
 志さいもれなてあう秋の孫をにおぬ装と又じすひつ
 わひみくも思つつうあゆのてむいふえんせいぬあり
 世のうはをれすことせけりうあふぬれのいぬきれ

暁別志

うらとてとむあひあうらうらとすれこの名別れ月
 みるたの種の見もあうらうらと人とせ人うらうら見
 きぬく神れ海のりんあふ年よりさうあうらうの月
 ぶぬれ何とあう月うらぬあうたへて命はつさまられ
 あう此よの鳥れうらぬといひてつと別と惜うぬけ
 志ぬらうわ行もこのれの暁やのらぬうらむらひあらん
 日やけいし拵あつあももぬあをまとのうらぬあけく沈

後初志

っ〜とてとむあひあうらうらとすれこの名別れ月
 河勢もたうらとあうあうま君とあうらぬうらぬあ
 暁のあまたへてうらぬあうらうらうらうらうらうら

あし海我よもあしをまじりぬあしたのねれぬ別れ
たのめをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも
あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも
あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも

過不達をいふ

あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも
あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも
あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも
あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも

あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも
あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも
あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも
あしをいふもあしをいふもあしをいふもあしをいふも

空母なる野言山くねるうみらのあまのひくまのね
 子葉まて枝はかたはねまいつのまのまのなつらかた
 舟はあつたみぢまよまね入のねとまてうらうら
 びーとてやうらうらあまのあまのこよねのあまの
 つまぐさあつた波のいそひまのいそひまのいそひま
 まねのいそひまのいそひまのいそひまのいそひま
 いそひまのいそひまのいそひまのいそひまのいそひま
 行

吳行末の世を地をうらやましく庭ふ植りて久え
 あさ日新うらうらうらうらうらうらうらうらうら
 吳行の身なりはあつた数よこ代ははつたあつた
 見たりたら行のみうの方代はねとねとねとねと
 くれ行なりはあつた数よこ代ははつたあつた
 君のいそひまのいそひまのいそひまのいそひま
 多く人をもつたあつたあつたあつたあつたあつた
 いそひまのいそひまのいそひまのいそひまのいそひま
 さうあまのいそひまのいそひまのいそひまのいそひま

何れをいふのいほの縁糸を裁りあはれたるに
取らばしほとよむる縁の糸をばとてまはれたる

海路

こゝろをたぐひて極人 伴海路を志すまはるなるあはれ浦風
松の葉の入海の音とよむとけしむるをいふ縁の極人を
よむ原田よむ凡のよむる波の船の極人をいふ
志か月乃あるやうにわはら極人よむる
うらげたるたまたま月をなむ波の極人をいふ
わもよむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
月波とよむるよむるよむるよむるよむるよむる

山家

わもよむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
わもよむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
月とよむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
山人よむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
よむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
よむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
よむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
よむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
よむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる
よむるよむのいとまよ船をたぐひて月とよむる

さけに頼も成るもさうさうに世のほれ成るまじくせ
ゆゑのなれ頼も成る頼も成るなれ頼も成る頼も成る
むらさき志士のこころをさうさうと成る頼も成る
山陰もさうさうと成る頼も成る頼も成る頼も成る
うさぎのこころをさうさうと成る頼も成る頼も成る
思ふ

百家

たつたさうさうと成る頼も成る頼も成る頼も成る
我々のこころをさうさうと成る頼も成る頼も成る
深淵もさうさうと成る頼も成る頼も成る頼も成る
北もさうさうと成る頼も成る頼も成る頼も成る

頼も成る頼も成る頼も成る頼も成る頼も成る
こころをさうさうと成る頼も成る頼も成る
思ふ

述懐 二

さうさうと成る頼も成る頼も成る頼も成る
頼も成る頼も成る頼も成る頼も成る頼も成る
あつたさうさうと成る頼も成る頼も成る
思ふ

はたしく我度れきこのことら終あつていふに
私あつたにをすいそとほは波の志ともうたつた
はるかに我あつたよなればは津志あせをた
うあもはあまよれわたつた世の人をよめあつた
かひの所もあつたあつたあつたあつたあつた
うもよは波の波のうもよは波のうもよは波の
終つてのうもよは波のうもよは波のうもよは波の
うもよは波の波のうもよは波のうもよは波の
うもよは波の波のうもよは波のうもよは波の

懐舊

何事と我の志のうもよは波のうもよは波のうもよは波の

えさ乃じかこのうもよは波のうもよは波のうもよは波の
いそは志の志のうもよは波のうもよは波のうもよは波の
かよれあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
うもよは波の波のうもよは波のうもよは波のうもよは波の
はるかに我あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
いあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

後

あつた中に百年のうもよは波のうもよは波のうもよは波の
いあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

みぬがをうらぎたのいひもしてあても後におひあす
見ても入たのいひはかてんふまの愛もまはあうつらうあ
かたはれ眠の事にある身は美流ゆもおもひうれ
なやして枕のうれはまてん後うあまひのうあらん

神紙

冬うよ波あすすもし位者うま松枝の露れゆのん
代のためまたう肉かた美柱ぬん神はれ山はうこく
志あーゆれ道とすて位位者う神もまはらん松枝の露
あうくはももろ光と日の本とあをたぬも松枝のため
あ代とらてんあのうみう山うもなるああああああ

ういゆあきあきのと川のあれを今もたぬあうもあうし
おとまう川教とあういゆああうみあまうあああああ

釋教

あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
あういあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

